

	HSK しわす・むつき 師走・睦月合併号 NO.133・134 2011.12.10号	1973年1月13日第三種郵便認可 HSK通巻番号477号 発行/2011年12月10日(毎月10日発行) 編集者/我妻 武 住所/〒063-0812 札幌市西区琴似2条5丁目3-5 マンションMOMO1F 特定非営利活動法人 札幌・障害者活動支援センターライフ TEL 011-633-6666 FAX 011-613-9323 H P http://npolife.net/ 発行/北海道障害者団体定期刊行物協会 定 価/100円
	Advocate	

いま一度、「絆と支え合い」を再確認したい

専務理事 石澤 利巳

今年の新年号（睦月号）に、「いのちの希望をつなぐ『絆』、人との支え合い、ほっとひと息つきながら生きよう」という深澤理事長の原稿が掲載されました。

3・11以後、『絆』という言葉が広がっているように、深澤さんが提起した重みを改めて再認識させられた年でした。

改めて、東日本大震災とそれに続く原発事故という未曾有の危機にあって、復興にむけて奮闘されている被災者の皆様にお見舞いを申し上げますと同時に、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。ライフとしても引き続き支援の継続をここに表明します。

今年1年のライフの取り組みとして大きなことは、「札幌市リサイクルプラザ発寒工房・札幌市リユースプラザ」の事業委託を受けたことです。環境事業と障害者やシルバー雇用という二つの役割を持つこの事業は、社会的事業所をめざす私たちにとって意義深い事業であります。しかし、環境と障害者雇用を併せ持つこの事業が、「安価な価格競争で落札」という一般競争入札にふさわしいのかという、大きな疑問を抱いたことも確かなことです。

また、市民活動プラザ星園開設に伴い、「元気ジョブ」「共働事業所もじや」が移設し、各事業所の移設などもあり、組織的にはあわただしい状況が続きました。最近はやや落ち着いた様子を取り戻してきたようです。

社会的活動としては、東日本大震災支援活動として、支援金をはじめスタッフ派遣や現地視察等に取り組み、継続的な支援としての現地作業所製品販売協力（復興市）などの取り組みを進めています。同時に、福島から避難してきた障害者の継続的な支援も行っています。

新規事業開発の取り組みとしては、三笠市の「野見山ファーム」と連携し、農作業への参加を6月から開始をしました。また、新商品開発としては、「共働サービスたねや」が釧路市にある「港町工房」との連携で、安心して食べられる魚介類の仕入れを開始、「コンブリオひだまり」では、狸小路7丁目にある「ラーメン一徹」さんのご支援を頂き、ラビオリづくりをはじめ飲食業に関する様々なご指導を頂いています。「カフェドキバリヤ」は、オープン当初よりご協力頂いている(有)菊地珈琲さんとの連携で、念願のオリジナル商品第1号「キバリヤ・ドリップコーヒー」の販売が開始されます。関係者の皆様には改めて感謝を申し上げます。

このように考えてみると、私たちは、本当に多くの人たちの支援を受け、また私たちが出来る限りの支援を続けながら、この社会の中で活動しています。これからも「共働・共生」を柱としながら、「絆」「支え合い」という「お互い様社会」を築き上げていきたいと、いつも以上に強く思った年でした。



イタリア映画「人生、ここにあり」



●『人生、ここにあり』を関さんと見に行きました リユースプラザ 西田 大作

10/24日、ルームメイトの関さんと、石澤専務理事がアドボケで紹介していた映画、「人生、ここにあり」を見てきました。

実話をもとにした映画で主人公のネッコが障害をもった仲間たちと協力しあって、新しい事業を成功させていく様にとても感動しました。

ネッコの「彼らと一緒に何か成し遂げたい！」という心の底からの純粋な気持ちが、色んな壁を乗り越え、仲間を動かしたんじゃないかなと思います。

「やればできる！」がテーマの映画ですが、僕はこの言葉が大好きです。人は今までの失敗や悪い経験から、やる前に「できない！」とおじけづいてしまうものです。拳句の果てには経験や知識だけで「あいつには出来っこない」「無理だ！」と自分以外の人間の可能性まで踏み潰してしまいます。そんな事はやってみないと解らないんだ！やっても出来ないのであれば、違う「出来る！」を探せばいいんだ！やるなら今しかないんだ！と再認識させられました。

「こんなこと俺に出来るだろうか、あいつに出来るだろうか」と心が後ずさりしそうな時におすすぬ映画だと思えます。

一睡もせずに真剣に映画を見ていた関さんに感想を聞いてみたところ「まあ良かったんじゃないの」とおすぎなみにバツサリと切られました。

障害者手帳を忘れたけども、偶然カップルデイだったので1000円で見れたという落ちもついてきたとても良い一日でした。

●『人生、ここにありを見て…』 きばりや 門田 輝美

実話と言うこともあり、テーマはとても重いのですが、心温まるエピソードあり、悲しい、楽しい、面白いありと、とても楽しめる映画でした。

それぞれの病気に対応する難しさを実感したことと、本当に自分たちの力を発揮できるような仕事をさせてあげたいという主人公ネッコの気持ちは、私たちの仕事にも共通するものがあるように思えました。

それぞれのニーズに合わせた仕事で、それぞれが充実感を感じられるような仕事を、見つけられることが理想的だと思いました。

●『映画をみて』

たねや 石田 程哉

最初は病院の言いつけで「障害者は〇×だからだめなのだ」という風に言われていました。しかし、自分達の仕事がしたいという思いから立ち上がり、家のリフォームの仕事を積極的に受けることになりました。

「なんでこんな変なもようをつけるのだ」とひなんされましたが、結果として「素晴らしいデザインだ」と評価され、ついにエッフェル塔のデザインを担当することに。

感想としては多種多様な障害者がいたのはいいのだが、車イスの障害者がいなかったのは残念ですね。後半失恋のショックで自殺するひとが出て来てしまったのもなんかあんまり良くなかったと思います。

障害者を扱うドラマや映画は少なく、「24時間テレビのドラマ」と「聖者の行進」(90年代後半のドラマ 確か野島伸司脚本だったと思う) ぐらいしかないので、もっと作ってほしいと思いました。

●『悩みました』

たねや 南 友康

ごめんなさい。映画をみたですけど、あんまり思いだせなくて何てかけばいいかわからなくて迷ってしまいました。

映画はおもしろかったです。



～ 「のみやまファーム」 さんへの農業体験報告 ～

たねやモモ 小黒 悠佑

今年は大変な年でした。震災や原発、私達がこの国でこれからどう生きていくのかを突き付けられた年でした。

その中でライフでも新事業や人事異動など激動の動きがあり、メンバー、スタッフ慌ただしくしている間に今年が終わってしまう、そんな印象です。

今年の5月から始まった農業体験(※アドポケットNO129号参照)もライフの新事業の一つです。ご協力いただきました三笠の『のみやまファーム』さんには心から感謝しております。また来年もどうぞよろしく願いいたします。

本日は農業体験事業に参加した山口さんに、インタビュー形式で振り返って語ってもらいました。

インタビュアーは私、小黒です。では、山口さんお願いします。

—いつから?—

山 口 ゴールデンウィーク明けに始まりました。

—きっかけは?—

山 口 なんだっけ…?
げ、下宿に?下宿じゃないや!自分の家の…住み込み…じゃないや?
ベランダに畑を作ろうと考えて、自主的に作物を育てる…

—家庭菜園されてるんですね?—

山 口 そう、それがきっかけで、のみやまさんに行くことになりました。

—のみやまさんに行くのはどれくらい?—

山 口 週に4回…週に4回…?一月に4回…週に1回?……?

—のみやまさんはどんな感じでしたか?—

山 口 空気がおいしいからビニール栽培がはかどった。新鮮さを感じました。

—どんなものを作っていましたか?—

山 口 トマト、オクラ、カボチャ、豆類、トウモロコシ、ズッキーニ…いろいろでしたね。エトセトラだ。

—どんなことをしていましたか?—

山 口 まずオクラ…フクラハギっていうの?あれ?…ん～違うな!パックにシール貼りだ!間違えました(^v^)^飛んでます(笑) ミニトマトの花粉付け。それが終わったら、次はトウモロコシの種まき。6月に入ってから、普段は雑草刈り、豆の畑は雑草が多い。

—大変なことは?—

山 口 一番大変なのがミニトマトの枝の下のを切る作業、これをやらないとトマト全体が色づかない(色づかない?)というより増えていかない。

—楽しいと思うことは?—

山 口 実がなって収穫するのが楽しみ。

—今後、頑張りたいことは?—

山 口 もっといろいろ自宅の野菜を増やしていく。*カンロをやりたい。スイカみたいに甘い。
*ソフトボールよりちょっと小さく、小さいズッキーニみたいな野菜。

—農業を目指す若者に一言お願いします。—

山 口 野菜はデリケートなので、もっと自分から好きになろう!

—ありがとうございました。—

山 口 はい、どうも～



札幌市リユースプラザ

〒004-0003 札幌市厚別区厚別東3条1丁目1-10
TEL 011-375-1133 FAX 011-375-1155

札幌市リサイクルプラザ 発寒工房

〒063-0835 札幌市西区発寒 15 条 14 丁目 2-30
TEL 011-662-7815 FAX 011-662-7816



<http://www.reuseplaza.jp/>



意 味

発寒工房館長 ジョン ウルク

皆さん、あけましておめでとうございます。新年度に向け未だこの事業が一年も経っていないのに二年目になった気がします。

昨年は新事業を理解出来た年でした。今年は皆さんと楽しく共に働く場として充実した年になれば良いなと思っています。一年は短いものですね。

去年はマラソンを始め、禁煙もした自分が誇らしいです。二つとも最初から計画したではありませんでした。マラソンは友人に誘われて始めました。禁煙は、したい気持ちはずっと以前からあったのですが突然すべてが整いました。

人には自分自身が図れないことがたくさんありそうな気がします。皆さんもきっと何かの切っ掛けで、自分も知らなかった世界を見つめる年になれば良いですね。



『年頭に寄せて…』

大井 敏彦

一昨年発寒こうぼうにトライアル雇用で入社して昨年の6月9日で1年が経ったが、この家具の修理という仕事は経験があるのでまだまだ発展搭乗途上という感じなので色々勉強しながら日々作業をしている。

昨年は管理会社がライフさんへ変わって、最初はどうなるのかと不安だったが、館長が人とのコミュニケーションを大事にする人柄もあって、少しずつなじんで行き、今では私の作業の先生という感じで教えてもらっている。

もちろん、シニア組の人たちにわからない事は教えてもらって、メモしながら勉強している。

また、イベントの手伝いやセミナーなどの講座を手伝ったりして貴重な経験をさせてもらっています。

今年度は昨年以上にステップアップして作業に取り込んで行きたいと思います。



『初めての忘年会』

齊藤 悦久

昨年を振り返っていうと、やはり「忘年会」。忘年会は生まれて初めて参加することなので、当日まで、楽しみにしましたね。朝のミーティングでは気が早すぎた発言で、笑いに包まれました(笑)。

当日も、工房の雰囲気と同じように楽しく場が盛り上がりましたね。一人ひとり、様々な表情が見えたと思います。

仕事では、まだスタートを切ったばかりなので、まずは「自分に出来ることから」始めたいという考えで進もうと思っています。



『発寒工房で…』

中橋 敬人

自転車を5年やっています。みな様今年もよろしくお祈りします。

❄️ ❄️ ❄️ ❄️ リユースプラザの2011年を振り返って ❄️ ❄️ ❄️ ❄️

札幌市リユースプラザ 松永 クニ子

4月1日からNPO法人ライフ環境事業がリユースプラザの管理運営を始めましたが、あっという間に2011年が終了しようとしています。

前期は、毎月のように開催されるイベント、東日本大震災の被災者の方々への「家具無償提供」、家具の即売・自転車の抽選販売などひたすら前進あるのみで走り続けていたように思えます。10月に2名の職員の退職があり、10月18日からライフ本体の西田さん森さんを迎えるという大きな変化がありました。若い二人は常に新しいことに興味を持ち、リユースプラザへパワーを充電しています。

ごみ減量、資源物の回収、家具修理などをドンドン吸収する2人に、リユースプラザ全体の意識改革も進んできています。平成23年度は残り3ヵ月で終了です。反省を活かした平成24年度への新たな取り組みが既に動き出しています。リユースプラザと発寒工房の連携を高め職員一同一丸となって、ライフの職員、メンバーの方々と来館者の交流を広げるイベント・教室を取り入れることに挑戦したいです。そして「ごみ減量」、「4R」、「共に生き・共に働く」をたくさんの市民に発信し、普及啓発拠点としてのパワーアップがこれからの目標です。

発寒工房の家具修理研修を終えて

久保 俊一

家具修理の研修を、リサイクルプラザ発寒工房で11月に2日間受けて来ました。

内容は、大型ごみとして出されたテーブルを洗い、キズの修正、下塗り、本塗りして再生する工程です。目視では分からないキズも手のひらで探り出し埋める根気のいる作業でした。

一連の工程も工房のベテラン職人の丁寧な指導で、本塗りまで無事終わらせることが出来ました。



リユースプラザで家具修理中の久保さん

厚別のリユースプラザで販売している家具は、現状有姿が基本で洗いと簡単な修理で展示しています。今後は、発寒工房で学んだ工程を厚別の作業に生かして少しでも良い状態にして市民に提供して行きたいと思っています。

リユースプラザイベント

「リユースプラザ冬まつり」



2月25日(土) 26日(日) 午前10時～午後3時

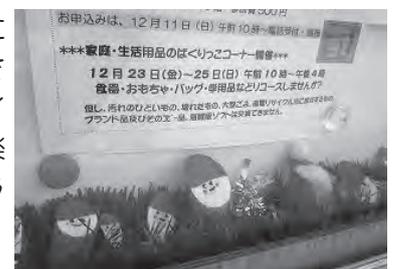
館内では市民参加のフリーマーケットや、レジ袋でたこ作り教室、紙すき体験、食事コーナーを開催。屋外では、「ペレット空き袋のソリスベリ」、「雪だるまんづくり」「レジ袋のたこあげ」など楽しい冬の外遊びのコーナーを開催。

リユースプラザの資源物はお宝の山!?

リユースプラザの掲示板に可愛い小人が並んでいます。作ったのは、西田さんと森さん。資源物として持ち込まれる「枝・葉・草」の中に、「この枝使って工作できる!」そんなお宝があります。9月に開催された下水道科学館フェスタの子供木工教室で、ストラップ作りの材料としても大活躍しました。

コチラをヒントに、西田さんが木をカットして森さんと二人で顔を描きました。心なしか掲示板に足を止める市民も増えたような気がします。そして、細い枝を使って「レジ袋たこづくり」にも挑戦中の西田さん。「リユースプラザ冬まつり」には、たくさんの子供たちの手作りのたこが空を舞う!を目標に試行錯誤中です。

「ごみ」や「資源物」として出す前に、もう少し楽しもう!活用しよう!を合い言葉にリユースプラザでは職員が色々アイデアを出し合い楽しいリユースプラザを模索中です。
(報告:M)



アウトソーシングセンター 元気ジョブ

札幌市中央区南 8 条西 2 丁目 5-74
市民活動プラザ星園 103
TEL 011-596-6581
FAX 011-596-6582
E-mail:genki@hatarakutei.jp



{希望} を抱いて

所長 織本 義昭

早いものですね、あっというまに今年も12月になり恒例の今年の漢字は「絆」と発表されました。皆さんにとっては今年1年を漢字一文字で表現すると何になるのでしょうか？

ふり返ってあの3月の大震災、秋の台風被害などの未曾有の天災と人災とも呼ぶべき政治のテイタラク、そして海外ではユーロ危機。そうそう日ハムは残念でしたが、コンサのJ1昇格がき決まったことはとても良いニュースでした。

元気ジョブはというと、一つの事業所では引き受けることができなかった仕事を複数の事業所で引き受けることもできるようになったり、相手の要望に応じてオリジナルなグッズづくり、施設外の就労体験も増やすことができるようになってきており、マッチングの成約の件数・金額は大幅にアップしましたがまだまだ満足できるものにはなっていません。ジョブとしては仕事の単価について、高い・安いということは当該の事業所が判断することであって、ジョブが判断することではないということを基本にすえて活動してきました。しかし現実には単価の安い仕事が多くあり、障害者の事業所を労働市場の最末端に組み込む役割を担っていることも事実です。これは、ジョブが生まれた時からもつジレンマともいえるものでしょう。

私たちとしては、事業所が選べるような仕事の選択肢をまずは増やす、そのなかでワリにあわない仕事は徐々に淘汰されていくことそこに大きな「希望」を抱いています。

現実から目をそらさないであるべき方向を見据え、「希望」の灯をともしようとしていくのがジョブの変わらぬテーマです。



「今年を振り返って」

中田 俊秀

今年も残すところ、あと僅かとなりました。例年、この時期になるといつも同じことを言っていますね。

よく子供の頃は「冬休みやクリスマス、お正月」などワクワク・ウキウキしながらの毎日を送っていましたが、大人になり年を重ねていくにつれて「師走は何かと忙しい…年末の挨拶まわりや、忘年会、社員の賞与、資金繰り」など目まぐるしく忙しかったことを覚えています。

私たちはこの最終月にそれぞれ置かれている立場で一年を締めくくり、新たな気持ちで新年を迎えることが社会人としての慣わしになっているのかも知れませんね。

今年も未曾有の大災害に見舞われ、特に原発事故が日本国内はもちろんのこと世界中に大きな影

響を及ぼしています。またユーロ圏のギリシャ危機やアラブ諸国の政情不安、タイ国の大洪水、日本の円高等々が日本に大打撃を与えています。資源の乏しい「日本株式会社」は「技術」、「貿易」を中心に国家生計を立てていますが新興国の猛追撃を受け、追い越されている分野もあります。

こうした世界、国内情勢が深く連動し、回りまわって私たちの日常生活に大きな影響を及ぼしています。私たちは生計を立てていくためにまわりの情勢や状況を見極め、どういう方向性を見出し、何をもって売上・利益・工賃を向上させていくのかが今後の鍵となってくると思います。

私たち個々の頑張りが組織としての頑張りとなり、ライフ全体の底上げに繋がっていくことができれば良いです。それには相互尊重、相互理解、相互補完が大切です。

良いお年をお迎え下さいませ。



NPO法人 札幌・障害者活動支援センターライフ
共働サービス たねや
 〒063-0804 札幌市西区二十四軒4条6丁目5-32
 テラ二十四軒1階
 TEL 011-613-0611 FAX 011-644-0088
 taneya@npolife.net

- ・出張販売
- ・配送業務
- ・チラシ折り
- ・封筒詰め作業
- ・箱折り・シール貼り
- ・清掃委託業務
- ・その他委託業務

☆ たねや本体より ☆

今年と来年…

たねや所長 島 明子

今年は何かと慌ただしい一年だったように思います。8月には「ひだまり配送センター」と「たねや」が合併し軽作業・清掃の他に出張販売と弁当配達が増え、さらにスタッフもメンバーも変わりました。最初は全てにおいてバラバラな状態でもつかり合うこともありましたが、ここ最近になりようやくたねや・ひだまり配送メンバーの境目がなくなり、連携が取れるようになって来ました。メンバー・スタッフ関係なく突っ込み合い、笑いも大いに出て来ました。来年はマンネリ化している販売商品を減らし、新しい商品を増やし、もっと地域の方達に周知されるお店を目指していきたいです。さらに、たねやモモもスタッフ一人体制に変わったこともあってかメンバー同士で声を掛け合い、仕事を進めていけるようになって来ました。今後またたねやの売上・メンバー工賃アップのために皆で努めていきたいです。

来年に向けて

宮澤 智成

JPの二つ折と帯をまく仕事をがんばりたいです。帯のシールはりをがんばりたいです。もっと給料が増えるまでがんばります。

『今年を振り返って』

高橋 繁広

今年2011年は大変な年だと思います。3月にあった東北震災も今だ復興の道は開かれず寒い冬がやってきます。ひだまりは4月から被災地の商品を輸入して販売しております。(売上は被災地の義援金となります)。今年の9月から人事異動と事業変更があり、私は「共働サービス たねや」に異動しました。仕事方法は変わりませんが販売場所が増えて仕事量が増えました。とても忙しいけど今年もようやく終わりました。



この一年を振り返って

山本 守一

この一年を振り返って見ると、大きい事といえば、東日本大震災がありました。そして、ライフからも現地に行き、写真を撮ってたねやの壁に貼ってそのことで僕にも今伝わって来ました。

そして何度となく地震がやって来て原子力発電所も爆発してしまい、僕も不安の日が続き、もう10年ぐらいいそこで住めないのではと思ってしまいました。原子力発電所をなくすといえ、でも原子力発電所で働いていた人はどうなるのでしょうか。100世帯の人がいたとしたら、今、なくすと



たねやモモ

〒063-0812 札幌市西区琴似2条5丁目3-5
 TEL 011-614-1871 FAX 011-613-9323



したら国ではどうしてくれるのか？今、若者でさえなくて困っているのに、発電所の人たちは今がんばってくい止めようと、必死でくい止めようとしているのに、その人たちの事はどうするのでしょうか？僕は何かがおかしいように思う。やってもらいたいと思っています。

H 2 3

川村 良一

1月コンプリオひだまりで1カ月いねむりが7月までおかつたので8月からたねやで12月までやっています。

就労継続支援事業A型
共働事業所

・印刷物版下制作・製本
・ポストイン・DM発送
・その他の軽作業

きばりや



今年も1年が終わろうとしています…

所長 岡田 悟

2011年はやはり東北大震災が世間の話題として、そして我々の大きな問題として取り上げられました。実際現場に行きこの目で見てきましたが、その時はまだ腐敗臭が漂い、いたるところに瓦礫の山がありました。今はその瓦礫撤去に一定の方向性が示されていますが、実際のところ各都道府県で温度差がある現状。また徳島での原発問題の広がりも止まることを知らずといった状況。そんな中で発表された2011年の漢字。『絆』。家族の絆や友達との絆などこの世の中には様々な絆があります。

もちろんきばりやとしては仕事仲間との絆でしょう。しかし、きばりやの中だけの関係を深めるだけでなく、きばりやがこの琴似で活動をし、働く中で多くの人とどのような関係を作っていくのか。そこに今年の『絆』の大きな意味があるんだと思います。何かあった時にすぐに助け合える関係や一緒に行動し合える協力体制を築いていく。そんな2012年でありたいですね。もちろん、いつものことのように仕事には全力投球で取り組んでいきますので、来年も1年間よろしくお願いいたします。

1年をふりかえって…

織本 亜哉子

今年8月、西町から琴似に移転して、新しい仲間が増え、一緒に協力して仕事をしてきました。

ポストインや折りの仕事、テープ起こし、丁合の仕事、帯止めをしました。

最近、ポストインがたくさんあって、時々迷惑をかけた部分もあったと思います。

私は寒くなってくると動きが過敏になってしまうことが多々あります。

でも、自分としては一生懸命がんばってやっているといます。

これからも色々な仕事が入ったらみんなと一緒に協力してがんばってやっていきたいと思っています。

毛糸に遊ばれて楽しんでいます！

カフェ 鈴木 昭子

私は1階のワゴン販売の時、最近編み物をしながらお客様を待つことがあります。

もともと待っている間に何か出来ることがないかなと思い、編み物の上手なスタッフに教わりながらコースターを編んだり、今ではクリスマス飾りを編んでいるところです。

はじめはちっとも上手いかずへこむこともありましたが出来上がった時の達成感が忘れられず編んでいます。



共働事業所 きばりや

〒063-0812 札幌市西区琴似2条5丁目3-5 マンションMOMO1F
TEL:(011)644-5533 FAX:(011)613-9323

Cafe de キバリヤ

〒060-0808 札幌市北区北8条西3丁目 札幌エルプラザ3F
TEL/FAX : (011)758-6533

～cafe de キバリヤより～

自慢のオリジナルコーヒーをギュッと詰めた
ドリップパックが出来ました。

1コ 90円 7コ箱入り 630円

カップにのせて
お湯を注ぐだけで
美味しいコーヒー
タイムがおうちで
も簡単に楽しめます♪



パッケージ・デザイン・印刷はもじやに依頼し、お店のみんなでシール貼り、箱詰めをして店頭で並べています。

手作りお菓子も販売中！

みなさまのお越しをお待ちしております。

12月29日～1月3日と1月31日は
エルプラザ閉館のためお休みです。

たまにですが、お客様からは「何を作っているんですか？」や利用して下さったお客様からは編み方についてのお話などを聞くこともあり、作成しているものから話が広がることも楽しみのひとつで、とにかく毛糸に遊ばれながら日々を過ごしていますが、ワゴン販売がスタートして半年、自分としては定着してきたことも嬉しいです。



キッチンとこだわり品の店
コン・ブリオ ひだまり コーナー
ひなたぼっこ

コン・ブリオ ひだまり
〒063-0812 札幌市西区琴似 2 条 3 丁目 2-37
サンハイム 1 階
TEL 615-4131 FAX 615-4132
E-mail : konburio@nplife.net

小野寺 恵

今年もお世話になりました。
コンブリオひだまりにお食事に来てくださった皆さん、お弁当や商品買っていただいたお客様、本当にありがとうございます。
2012年はランチメニューの充実をめめたいと思っております。
ご来店をお待ちしております。

菅野 恵

今年も一年お世話になりました。
来年ももっともっと皆さまに美味しいと喜んでいただける様なお料理を作っていきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

新井田 琴絵

今年と来年に思うこと
共同連東京大会に行きました。楽しかったです。
2011年の反省
野菜の皮むきや切りがうまくなりました。2012年は炒めたり揚げたりする仕事がしたいです。

横窪 友美

今年の反省
笑顔が少なかったこと。イベントにあまり参加しなかったこと。
来年の抱負
笑顔を多くすること。イベントになるべく参加すること。お弁当をもっと多く売ること。
来年もよろしくお願ひします。

藤井 孝雄

今年度は下水道バザーでフランクフルトの担当をして集中しながらやりきったことだと思ひます。来年はしょうみきげんをかくにんする事だと思ひます。

余田 知広

ジンギスカンに行ったこと。白石体育館に行ったこと。食べ放題に行ったこと。皿洗ひをしたいこと。弁当洗ひをしたいこと。弁当配達をしたいこと。

お買ひ物情報

- チーズハム板……………1本 425円
- 野菜天……………3枚 205円
- 揚げボール……………200g 285円
- 鶏ごぼう……………5本 285円

味のかまぼこ高坂さんより入荷いたしました

松橋 勇祐

2011年はいろいろ経験しました。5月から10月まで三笠のみやまファームで農業体験をしたことです。特に真夏の時が大変でした。
8月には共同連大会で東京にいきました。交流会ではマルモリやKARAのダンスがありました。
バザーでは下水道科学館と10月のリユースプラザに参加しました。焼きそばを手伝ったりしました。
2012年はバザーにも参加して、また農業体験もしたいと思ひます。
みんなで給料アップを目指したいです。

吉川 卓哉

らいねんもよろしくおねがひします。
ひだまりでもっとうりたいです。いっぱいおきゃくさん、きてほしい。がんばります。そうじをやります。おべんとうかいしゅういきます。おべんとうはいたつもいきます。

三谷 健一

9月から働いて店の仕事は60パーセント、キッチンの仕事は40パーセントぐらいのできてした。
2011年は100パーセントめざしてがんばります。ボーナスがでるほど売上たい。一月100万めざします。

2012年もご愛顧宜しくおねがひいたします。良いお年をお迎へください。コンブリオ ひだまり一同

ヘルパー派遣業務・在宅介護支援 ヘルパーステーション

札幌市西区二十四軒4条6丁目5-32 テラ二十四軒1F TEL 011-623-2505 FAX 011-644-0088

ゆい
繭結



2012年本年も昨年同様よろしくお願ひ致します。

所長 佐々木 泰彦

昨年は東北地方・太平洋沖地震があり、死者・行方不明者、2万1911人もの方が犠牲になりました。

私自身の事になりますが、同年3月末に母が亡くなり、私が7歳で関節リウマチと診断されてから、今まで母には苦勞をかけっぱなしでした。何度も入退院を繰り返し、施設生活も12年、ちょうど13年前に施設をでて、すぐ作業所の代表代行をし、そして9年前に結婚し今では二児の父親にもなりました。

その間に今のライフで事業所を周りの協力で立ち上げさせてもらい、そんな様子を見せることができ、少しは親孝行ができたのではないかと思います。

悲しい出来事はその後も続き、5月にはヘルパーでもあり、親友でもあった人を不慮のバイク事故で亡くしてしまいました。彼はまだ39歳でした。

つらく悲しい年でもありましたが、現在35名の利用者の皆さん、5名の職員、13名のヘルパーさんがいることで、こうして生きている私は「ヘルパーステーション繭結」を必要としてくれる限り、やり続けていかなければと思えたのです。利用者さんへの対応、まだまだいきとどいていないこともあるかと思いますが、これからも体が動く限り老体にムチ打って頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

老育学入門 その4 家族が敵となる日

繭結管理者 笠井 衛二

人生、色々あるが家族はいいものである。が、老いていくとその家族が敵となる時がある。そんな日々を紹介したい。

老いるといたところで症状が現れる。味覚に不安を感じる。視界がかすんできた。足腰が痛む。ちょっとした事で息が上がる。と続くが、耳が遠い、発音がはっきりしない、のもそのひとつだ。その結果、小さな葛藤が生まれ、家族との会話に支障が育ち始める。

「○×▲・○・」と家族。「ん、なに？」と私。

家族はため息交じりに答える。

「○×・×・▲」と家族。「ん、なに？」と私。

家族はどなり声交じりに私を見る。

「○×▲・○×」と家族。「ん、なに？」と私。

家族はなにも答えずにため息をつく。

ここで私も考える。「聞こえたように振る舞おう、これ以上嫌な顔をされたくない」。

「○×▲・○・」と私。「はあああ？」と家族。

家族はため息交じりに問い直す。

「○×・×・▲」と私。「はあああ？」と家族。

家族は哀れな顔で私を見る。

「○×▲・○×」と私。「はあああ？」と家族。

家族はなにも問わずにため息をつく。

ここで私も考える。「話かけないようにしよう、これ以上嫌な顔をされたくない」。聞こえる、聞こえないは、些細な老化の一端なのだが、意思の伝達手段であり会話の主軸でもある。それが家族の何気ない一

言で、私の日常に僅かな疑問が生じる。

私は「耳が悪くなったね」の家族の指摘に、「ああそうか」と鷹揚にうなずくも、「そんなことは判っておったわ」と心の底で自嘲する。そして次に「だったら、少し大きな声で喋ってくれよ」と家族にちょっとした気遣いを期待する。家族にとっては耳が遠くなったな、程度の認識で危機感もなく、過度な対応も念頭にはない。そんな事が続くと、私はあることに気づく。もしかして、わざと小さな声で私を試している…。

そんな疑惑は着実に成長を続け、やがて確信となり、私は馬鹿にされている、との結論に達する。

そうだ、耳が悪いからと馬鹿にしている、悪口をいっている、そんな家族は敵だ！

記憶の減退も老いるにとって脅威だ。同年輩の友人との会話は「あれ、それ、これ、どれ…」に終始し、固有名詞は飛び交わない状態だし、私自身、物忘れの自覚は強く持っている。が、家族は容赦ない。「思い出しなさい」、「努力して」、「考えて考えて」と何度も迫ってくる。思い出さないのは怠惰であり、結果がでないのは努力不足と逃れの道もない。「忘れたっていいじゃないか。覚えてる家族がフォローしてくれればいいのに」と、すがる様に思う。やがてある結論「あれだけ責め立てるのは、私が憎いからだ」が生まれる。疑問から憎悪へと長い時はいらぬ。

そうだ、記憶が悪いからと馬鹿にしている、悪口をいっている、そんな家族は敵だ！

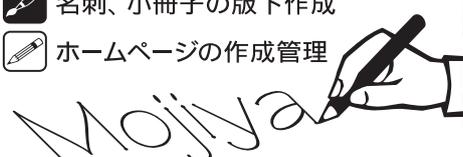




共働事業所 もじや

〒064-0808
札幌市中央区南 8 条西 2 丁目 5-74 市民活動プラザ 星園 104
TEL (011)596-6583 FAX(011)596-6584
E-mail:mojiya@npolife.net

- 印刷・編集・制作・出版・企画
- テープ起こし
- 名刺、小冊子の版下作成
- ホームページの作成管理



『 竜年に期待を込めて 』

営業部長 福田 義浩

今年はずっと少し違う年だったように思う。計画性が無く、行き当たりばったりの人生だけれど、それなりの夢もあり、あわよくば人並みの小さな幸せにありつきたいとも願っている。

55 年体制が崩れ政権が交代し、何が変わったのか。デフレ経済の脱却にあえいでいる間に、東日本の震災が起こり若者達は職にもつけず、高齢者は年金がもらえなくなるのではないかと心配している。日本全体がまるで夜の暗い湖にいるようなせきりょう感を感じ自信を失いつつあるように思う。バブル時代にはまるで日本を中心に世界の経済が動いていたような錯覚に陥り、その後もバブルの幻想にとりつかれたまま「失われたこの年」が過ぎてしまった。過去を反省する間もなく、喫賢の問題を抱えた現実が否応なしにやってくる。

資源の乏しい小さな国が、GNP 世界第 3 位でいられる事さえ不思議に思えてくる。

退路は断たれ、一寸先は闇である。もがき苦しんでいる日本に光は差し込むのだろうか。小さな国が世界の中で、どんどん小さくなっていくようだ。

来年は竜年である。閉塞感を打開する年であって欲しい。竜は天に昇り、雲を作り、雨を降らせるといふ。乾いた大地に雨を降らせ実りある年になって欲しいと切に願う。



『 仕事について 』

真光 和徳

もじやの工場の仕事は、印刷された名刺の検品と梱包などです。たまに営業にいったりします。今は年賀状はがきの検品もやっています。いろいろな仕事をしてみたいです。

『 一年を振り返って 』

岩崎 佑司

今年一年を振り返ると、プライベートでは、一人暮らしをはじめて一年が経ちました。楽しいことばかりではないが、多くの仲間を支えられ何とかやってきました。

仕事では、統一地方選挙の時に、1 月の真冬から 4 月までの 3 ヶ月間という長いようで短い期間ですが、選対事務所でボランティアスタッフとしてお世話になり、貴重な体験をさせていただきました。そして、印刷のことにもっと興味が持てるようになりました。

今年一年、たくさんの人に出会い、叱咤激励を受けて成長した 1 年であったと思います。

来年も体に気をつけて無理せず、仕事を頑張っていきたいと思います。



新品のスーツに身を包み張り切る岩崎さん

『 久々のポスティング 』

石川 和寛

俺はきばりやが忙しい時はポスティングを手伝ってます。

初日は迎えにきてくれたり送ってもらったりで、次の日からもじやに行かないできばりやに直接行ってます。もじやではほとんどしゃべったりしないのにきばりやにはお馴染みのメンバーがいるので、ワイワイ騒いだりはしゃいだりとなります。それは車の中でも同じこと。ポスティングが

終わってももじやに戻るとまたしゃべらない日々。ポスティングなどで「疲れた〜」ってなるくらい思いきり体を動かしたいです。ケガしない程度に。



私のオススメ

宮城谷 昌光 著「沈黙の王」

事務局 矢後 みゆき

中国古代商(殷)の高宗武丁の若かりし日の苦難の日々を、想像力豊かに描いている。

武丁は言語障害があり、祭祀の長でもある商王の後継者にこのままではできないという父王の苦悩。ついに追放されることになるが、父王や母王妃の愛情を胸に苦難の旅が始まる。

将来王妃として迎えることになる好族の少女を助けたり、甘盤のもとで学問に励んだり。ついに商の開祖湯王の廟で自分の進むべき道を暗示され、さらに旅を続ける。そして、生涯、武丁の傍らで「武丁の声」となる男と出会う。

このころ漢字の原型ができたといわれ、鳥の足跡から文字表記を考え出したというエピソードを交え、短編ながら読み応えがある。

宮城谷氏の著書には、見慣れない漢字がたくさん出てくる。その使い方にも意味があり、氏の漢字へのこだわりが伝わってきて、漢字が苦にならない。「史記の風景」を読むと、時代背景が理解しやすいので、これもおすすりめである。



出版社: 文藝春秋 (1995/12)
文庫: 317ページ
価格: ¥570(税込)

～ライフカンパのお願い～



NPO札幌・障害者活動支援センターライフでは、設立して20年(法人化して10年)が経ちますが、これまで何か行動を起こす時に目標を設定してカンパのお願いをしてきました。今回は皆様方に、ライフ運営資金を確保するため年賀状などの印刷、年末年始の物販についてのご協力をお願いします。

3月にあった震災の影響や世界的な不況で仕事量が減っており、ライフの運営が非常に厳しい状況です。大変な状況にはならないように努力していますが、ライフの運動に共感する皆様方からの応援も必要です。どうぞよろしくお願ひいたします。

振り込み先

- 北洋銀行 琴似中央支店 普通預金 4606735
加入者名 特定非営利活動法人
札幌障害者活動支援センターライフ
理事長 深澤 正義
- 札幌信用金庫 琴似支店 普通預金 3296744
加入者名 特定非営利活動法人
札幌障害者活動支援センターライフ
理事長 深澤 正義
- ゆうちょ銀行 振替口座 02710-4-63485
加入者名 NPO札幌・障害者活動支援センターライフ

ご協力ありがとうございます

賛同会費

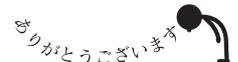
クドウ マサユキ様

寄付金

- 川村 勇様
- 織本 義昭様
- 金子 彰夫様
- 濱中 邦彦様
- 匿名希望 様

アドボケ購読料

- 金子 彰夫様
- 道下 大樹様
- 鐘ヶ江 寿美子様



編集後記

皆さんは年末年始をいかがお過ごしでしょうか。今回のアドボケイトは12月号と1月号の合併のために2011年の出来事を振り返る記事があったり、新年の挨拶や2012年の目標や抱負などの記事が混然一体となっています。実は月末の発行日を月中旬に切り替えるために合併号にして発行を調整させていただきました。どうぞお許しください。ただ、書き手が混乱しないように記事はそれぞれに任せました。これもライフです。どうか温かい目で見てください。私にとっての2011年は公私共に忙しい年でしたが、2012年もそれが続きそうな気配です。皆さま方も新しい年が良い1年でありますように。(タケ)

アドボケイト 師走・睦月合併号(第133・134号)

2011年12月10日発行(毎月10日発行) HSK通巻第477号
1973年1月13日第3種郵便物認可
発行人/北海道障害者団体定期刊行物協会
細川 久美子
〒063-0868 札幌市西区八軒8条東5丁目4-18
編集人/NPO法人札幌・障害者活動支援センターライフ
事務局長 我妻 武
〒063-0812 札幌市西区琴似2条5丁目3-5マンションモモ1F
TEL 011-633-6666 FAX 011-613-9323
E-mail honbu@npolife.net
ホームページ http://npolife.net/
郵便振替口座 02710-4-63485
定価 100円